

第1回 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会 議事要旨

日時：2006年12月1日（金） 14：00～15：30

場所：ホテル阪急エキスポパーク 月光2

出席委員、アドバイザー及びオブザーバー：19名（うち2名代理）

開会（会長選出までの間、事務局が議事並びに司会を進行）

1. 阪口吹田操車場跡地まちづくり計画委員会会長の挨拶
2. 出席者紹介
 - ・事務局より、名簿に従い協議会に出席した各委員とアドバイザー、オブザーバーの紹介
3. 吹田操車場跡地まちづくり促進協議会について
 - ・事務局より、吹田操車場跡地まちづくり計画委員会設置要項及び吹田操車場跡地まちづくり促進協議会規約について説明。
4. 会長選出
 - ・事務局より、会長選任についての説明の後、会長の自薦・他薦について意見を求めた。
 - ・委員より、吹田商工会議所の夜久委員を推薦する意見が出された。
 - ・委員の推薦に対して、出席委員の同意を求めたところ、「異議なし」の意見が全員より出され、夜久委員が会長として選出された。
 - （会長が選任されたことにより、協議会の司会が事務局から夜久会長に交代）
 - ・副会長として夜久会長から和泉委員が推薦された。
 - ・会長の推薦に対して、出席委員の同意を求めたところ、「異議なし」の意見が全員より出され、和泉委員が副会長として選出された。
5. 議事
 - 今後の進め方
 - ・会長より、当協議会の今後の進め方についての説明を事務局に対して求めた。
 - ・事務局より、資料5「吹田操車場跡地まちづくり計画委員会の進め方について」に基づいて、資料の説明を行った。
 - ・平成18年度については、計画委員会で出された全体構想に関する意見を元にして、促進協議会において具体案を検討する。これらの内容を踏まえ、市民意見を反映した上で、年度内を目標にまちづくりの全体構想をまとめていきたい。
 - ・平成19年度には、この吹田操車場跡地への事業者の進出意向調査を行うためにも、夏頃を目処に事業者のエントリーコンペの実施を予定している。コンペ実施に向けての具体案についてもご意見を頂きながら、進めていきたいと考えている。
 - ・平成20年度末を目途に、計画委員会は一旦目途をつけたいと考えており、この促進協議会も同様と考えている。しかし、その後も促進協議会の委員の皆様には、引き続きまちづくりに関わって頂きたいので、平成20年度に予定している事業企画コンペ等も考慮して、その後の取り扱いについて、当協議会の中で検討をしていただけないか、と考えている。
 - ・構想案の検討や計画案の検討段階では、毎回皆様にお集まり頂くには困難な状況も考えられるので、小委員会の開催等、運営上の対応を考えたい。
 - ・会議の公開について、事務局より以下の内容を提案。
 - この計画委員会及び促進協議会においては、公開を原則とする。
 - 公開の方法については、会議録による公開とする。
 - 会議の傍聴に関して、本協議会宛に要望書が来ているが、運営面において、計画委員会と同

じ対応とすることとしたい。

会議録においては、各委員名は表示せず、会議全体の内容がわかる形式での公開を行うことにより、委員の皆様からの忌憚のないご意見をできるだけ頂戴したい。

報道機関による傍聴については、できるだけ当事業をPRしたいとの想いから、傍聴を認めるかどうかについては、その都度検討願いたい。

先日の計画委員会においては、報道機関が数社来ており、傍聴を認め、取材を行っている。

- ・以上の内容を踏まえ、会議の進め方と公開方法についての議論をお願いしたい。

<以上、事務局説明。>

会長より、会議の進め方と公開方法に関する事務局提案について諮った。

委員から「異議なし」の意見が多数だされ、事務局提案が承認された。

吹田操車場跡地のまちづくりについて

- ・事務局より、資料6「吹田操車場跡地のまちづくり概要」について、パワーポイントを用いて説明を行った。

意見交換に移る

<各委員より、説明のあったまちづくり案について以下の意見が出された。>

吹田操車場跡地地区の位置づけに関する意見

- ・この吹田操車場跡地は、吹田・摂津両市にまたがる付加価値の高いゾーンであると思う。
- ・吹田操車場跡地地区は、大阪府としても北大阪地域に残された非常にポテンシャルの高い貴重な空間と考えている。
- ・当地区のような、吹田・摂津市における非常に大きな土地というのは、やはり貴重である。
- ・都市間競争が厳しい中、これからの100年を見据えた持続可能な新しいまちとしていくために、オンリーワンであり続ける高度な機能集積や高質な緑に包まれた空間であることが重要。
- ・「緑と水に包まれた健康教育創生拠点」と、テーマは良いが、オンリーワンの視点で言えば、実は色々な都市開発（大阪駅北地区でも）でよく使われている言葉あり、オンリーワンを目指すのは難しいのではないかと、思っている。
- ・まちづくりの考え方でオンリーワン志向のものが多いが、周辺に様々な都市機能集積がある中で、新たに都市開発を行う時にオンリーワンを見出すのは難しいと思う。
その場合、周辺の北ヤード（大阪駅北地区）や彩都、千里中央などの開発プロジェクトが担っている役割などを踏まえ、地域のネットワークの中で、当地区がどういう役割分担をしているのかを考える必要があり、自分達のアイデンティティを明確にさせることが大変重要である。

いまのまちづくりに求められているものに関する意見

- ・行政区分等の垣根を越えたまちづくりの実現と、「産官民」の連携により、ここで住む人や集う人、ビジネスを考える人達がお互いに共存し、安心安全なまちといった要素により、まちの付加価値を高めていくまちづくりを実現して欲しい。
- ・当地区のまちづくりは、21世紀を見据えた未来型の都市として、起爆剤となるように考えていくのが良いと考えている。
- ・未来を指向するまちづくりにおいて、緑を中心に考えていくのは、どこのまちづくりでも当たり前になっているので、21世紀を見据えた開発とするためには、もう一つインパクトが必要である。インパクトとして考えられるものとしては、まちづくりの中でのCO₂削減など環境改善への取り組みとか、ソフト面を重視した安全安心なまちづくりなどが考えられる。
- ・彩都（国際文化交流都市）のまちづくりでは、緑や地域のコミュニティづくりといった、未来の新しい住宅地のあり方について色々検討している。地域住民が主体的に取り組む仕掛けを考え、住宅地内に里山やお祭りがあり、みんなで田植えをしたり、お酒を造ったりできる住宅地をつくっている。

吹田操車場跡地のまちづくりの全体像に関する意見

- ・高質な森に包まれた高次元の都市機能集積を図りたい。
- ・この吹田操車場跡地には約3 kmに及ぶ緑の遊歩道が整備され、そのうち、吹田市域内には「緑の交流ゾーン」が計画されている。摂津市域については、「都市居住ゾーン」の中で、防災機能も備えた一定規模の公園整備を図るものと考えている。
- ・吹田操車場跡地全体の中心は、JR岸辺駅であり、まちづくりの核として、摂津市域と併せた高度な機能集積を図っていききたい。そして、摂津市域では、JR岸辺駅に近接した立地条件を活かした「都市居住ゾーン」の整備を考えている。
- ・まち全体に緑（森）があり、その中に色々な都市機能があることが、非常に特徴的であり、理想的であると思う。
- ・当地区のまちづくりにおいては、緑や健康・教育、まさにこれからの時代のテーマを揚げた素晴らしい内容だと思う。
- ・当計画の実現時期までには、少し時間があり、現在、各地でこのような都市開発が行われてきていることがあるので、これまでの実現例の「いいとこどり」をしていけばいいのではないかなと思う。

導入機能に関する需要把握や事業性の検証の必要性に関する意見

- ・健康機能に関して、介護予防やメタボリック症候群の対策の重要性はわかるが、これもスタッフを必要とするため、医師などの人材確保が必要となる。今、医療費削減の流れの中で人員削減をせざるを得ない状況がある中で、その場合、施設運営に関するコスト負担をどのように行うのか。運営面を含めた検証をしっかりと行うことが必要で、箱だけつくって機能しないということ避けなければならない。
- ・医療健康創生ゾーンや教育文化創生ゾーンの具体的な利用者を見極める必要がある。そのために、当地区におけるそれぞれの施設需要の把握や、想定される参画事業者にどんな人がいるのかが気になる。
- ・当地区が目指すターゲットの地理的特性や年齢性別特性を整理する必要がある。
- ・地理的特性に関しては、地区周辺の都市構造が、岸辺駅を中心に放射状に形成されたものではなく、基本的にはJRの線上に沿った縦長の土地である。それによる利用者特性が、吹田・摂津市域よりは、京都や大阪の方に向いていることも考えられる。
- ・年齢性別特性については、市民や利用者に対して、どういう層をメインターゲットにするのかについての検討が必要である。総花的に終わらず、高齢者なのか、若年層なのか、女性なのか男性なのか、ある程度の柱が必要である。

周辺地域との関係性に関する意見

- ・吹田操車場跡地のまちづくりにおいて、隣接する正雀下水処理場及びクリーンセンター（約4.5 ha）に関する取扱いが一番の問題と認識している。これらの機能廃止も含めた土地利用のあり方について、関係機関との協議調整を含め、吹田操車場跡地のまちづくりと併せた検討が必要。
- ・今後は都市計画決定が必要になることが想定され、それに必要な資料についても整理して提示して欲しい。その時のポイントとして、当計画地内のことだけでなく、隣接市街地や近接市街地との関係性についての整理が必要である。関連性が必要なのではなく、考え方を整理することが重要である。
- ・ただし、地区内に整備する機能が、周辺市街地とのネットワークを前提に機能するもの（例えば、防災機能など）である場合に、周辺とのネットワーク形成がなされていなければ、十分に機能しないことになるので、これは問題があると思う。
- ・吹田・摂津の市全体として、市域内にある他の課題（例えば、防災面や環境面、高齢化問題など）を抱えた市街地と、連携した事業実施により、市内他地区の課題解決に資するようなリン

ページを図るのかどうか、についての議論も必要であると思う。

吹田操車場跡地の特徴づけ・導入機能に関する意見

(教育文化に関して)

- ・大学の機能集積は吹田市内に相当あるが、大学自身が今頑張っていく必要があるのは、「産・学・民(市民)」とのコラボレーションである。そのための拠点に当地区はなれると思う。
- ・大学のキャンパス移動や、阪大病院の分院整備等は考え難いが、大学と市民や企業の新たなコラボレーションの場としての位置付ける考え方はできるのではないかと。

(健康医療に関して)

- ・医療については、高度な研究機関を有したガンなどの拠点病院を作るなど、という話を除けば、地区内に普通の病院や医療施設が必要とは思わない。
- ・健康を主眼とした施設構成を図るべきである。それも、ありきたりのフィットネスクラブのようなもので終わるのでなく、国が取り組んでいる「メタボリックシンドローム」対策や「生活習慣病の予防」等に焦点をあてて、健康増進や疾病予防に取り組めるセンター機能を設けることが良いと思う。
- ・大阪大学の一部機能の移転や国立医療施設の移転などの計画があれば、イメージしやすいが、そのような具体的な話が無い中では、どのような計画になるのか、イメージするのは難しい。

(緑に関して)

- ・緑の遊歩道についても、健康づくりの拠点として捉えて欲しい。歩いた距離が判る距離標の設置や、健康運動器具の設置、休憩機能を兼ねた運動施設、温泉が湧くのであれば、リハビリテーションを兼ねて遊び感覚で健康づくりに取り組める場所ができるのではないかと。
- ・緑が重視されていることに非常に感激している。また、運動場等も企業グラウンドを中心にかなり減っているので、運動機能を確保するためにも、そうした運動機能も必要と考える。
- ・健康や静かな住環境の確保という視点からは、鉄道貨物のことやトラックなど、グリーンベルトとしての緑の遊歩道の高さを確保し、貨物駅とまちとの緩衝性を高める工夫が必要ではないかと。
- ・緑や環境を重視する場合に、駅を降りたときにぱっ、と広がるような景観づくりも重要である。

地域資源の活用に関する意見

- ・万博公園が出来て長い時間が経過しているが、日本庭園など非常に綺麗な緑が育った素晴らしい場所になっている。このようなまちを作るためにも、計画委員会や促進協議会、市民と一緒に、色々な知恵を出し合うことにより、未来に渡って素晴らしいまちになることを願っている。
- ・地区周辺には、大阪大学や関西大学をはじめ、数多くの教育研究機関があり、地域での高質な医療を提供している機関もある。こうした教育・医療・健康など新しい分野におけるニュービジネス創出のポテンシャルも高く、併せて市民にとっても有益で、持続可能な機能やまちづくりを、この協議会で考えていきたい。
- ・この土地には、かつての吹田操車場として、国土軸に沿った貨物輸送拠点として、大阪圏の市民活動を支えてきた歴史があり、この歴史性を活かした計画になることを期待している。

まちのつくり方に関する意見

- ・阪神・淡路大震災後の復興過程で大規模商業施設の出店ラッシュで中心市街地が衰退したり、マンション開発により、小学校の受入が出来なくなって、条例でマンション建設禁止したりする事例がある。こうした状況にならないようなまちづくりを行うことが必要。
- ・公園をつくる場合でも、作り方によっては、夜は怖くて誰も寄り付かない場合がある。ハードだけでなくソフト面に配慮したまちづくりが必要。

まちづくりへの協力に関する意見

- ・ 緑を重視した景観がある中で、地域の強みを活かした医療拠点や健康づくりの拠点ができることに対しては、非常に期待をしており、協力をしていきたいと考えている。
- ・ 情報民間事業者として、当地区のまちづくりの開発規模に十分耐えうる規模、それから信頼性の有る情報通信基盤を提供することを最低限約束する。
- ・ 計画のキャッチフレーズである「緑と水に包まれた健康教育創生拠点」については、最近の話題である「地球環境」、「健康志向」、「教育問題」に込めていくまちづくりになると思い、できるだけ協力していきたい。
- ・ これまでの計画実現に向けた検討の中で、行政が携われる部分というのは、基盤整備が主体であり、今後、具体的な事業手法や事業主体が決まってくるが、確実に協力してやっていきたいと思う。
- ・ 当協議会に全面的にご協力をさせて頂きたい。
- ・ この当該地ばかりではなくて、北大阪地域に波及するような豊かなまちづくりに貢献する計画が、できれば良いし、そのための出来る限りの協力をしたいと思う。
- ・ まちづくり計画は、隣接する新しい貨物駅整備と密接不可分な関係にあると、我々は理解しており、緑の遊歩道や南北自由通路については、我々が整備を行うものと考えており、これらの工事スケジュールを確実に進めていくことが、このまちづくりの実施を担保していくことになると考えている。
- ・ 現状において、未着工部分も一部であるが、引き続き関係者の理解と協力を頂きながら、事業者として最大限、努力していきたいと思っている。